

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年1月20日（月）

2 確認箇所

D排水路流域（図1）

3 確認項目

D排水路流域における汚染状況の確認

4 確認結果の概要

東京電力は、発電所構内西側の33.5m盤から1～4号機建屋周辺への雨水流入による浸水リスクを低減するため、D排水路の設置を進め、令和4年8月30日より運用を開始している。

D排水路に流れる雨水のモニタリングの一環として、東京電力は定期的に排水路からサンプリングした水の放射能分析を実施し、その結果を公表しているが、今回は、最近D排水路の放射能分析値が最高値*を更新していることから、D排水路の流域を確認するとともに、周辺の地表面の汚染検査を行うことにより、D排水路への汚染流入の可能性について確認を行った。

※D排水路放射能分析値最高値

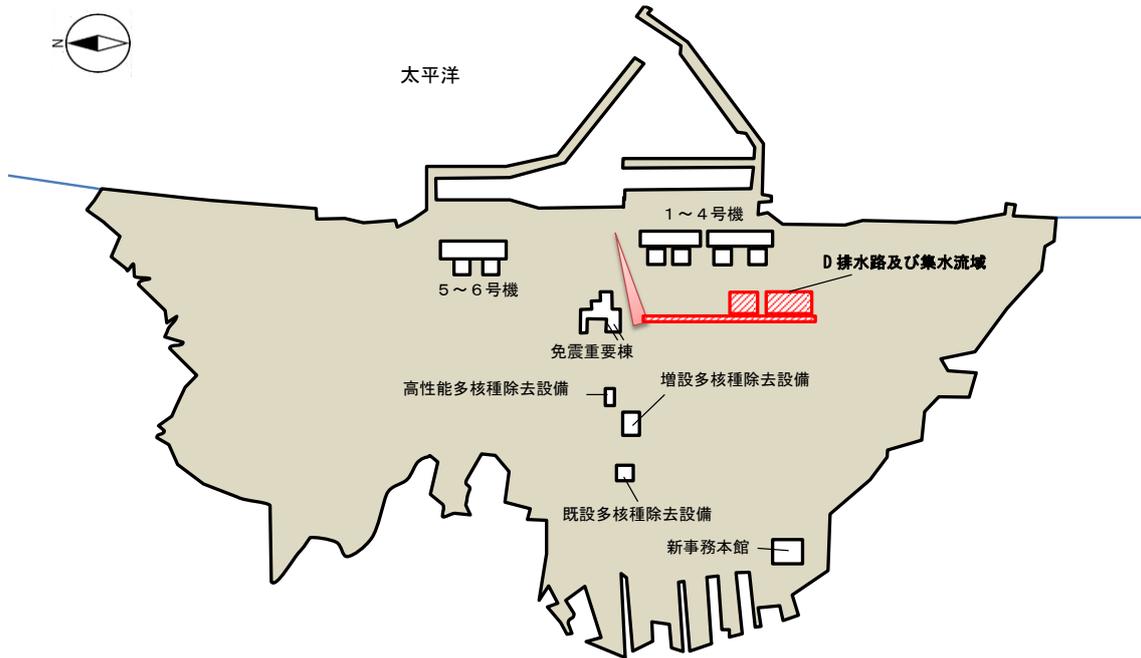
セシウム134：0.63Bq/L、セシウム137：49Bq/L、トリチウム8.4Bq/L。セシウムが令和6年11月15日、トリチウムが令和6年12月4日に最高値を更新。いずれも告示濃度限度*（国が定めた基準）を大きく下回る。

※告示濃度限度

「東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関して必要な事項を定める告示」（平成25年4月12日原子力規制委員会 告示第3号）に定めるもの

<確認結果の概要>

- ・現在のD排水路の流域は、1/2号機超高圧開閉所周辺の法面の他、1～4号機建屋周辺の南西高台部分（横型ブルータンク保管エリアB、C及びタンク解体部材一時保管施設、瓦礫類一時保管エリアN）となっている。（写真1～2）
- ・これらの流域において、雨水の流路を参考に、側溝や土壌の堆積箇所など、計4か所においてGM管式サーベイメータを使用した地表面の汚染検査を実施した。その結果、いずれの地点もBGと同等であり、汚染の流入が疑われる箇所は確認されなかった。（写真3～6）
- ・確認した範囲では、保管物等からの漏えい等は確認されなかった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
D排水路の集水エリア①
(瓦礫類一時保管エリアNの外観)



(写真1-2)
D排水路の集水エリア②
(瓦礫類一時保管エリアNのうち
凹地付近)



(写真 2-1)
D排水路の集水エリア③
(横型ブルータンク保管エリアCの
外観)



(写真 2-2)
D排水路の集水エリア④
(横型ブルータンク保管エリアC
脇の配管等)



(写真 3)
同集水エリア内での地表面の汚染検
査の状況 (ポイント1: テント式
タンク解体部材一時保管施設の南側
雨水側溝)



(写真 4)
同集水エリア内での地表面の汚染検
査の状況 (ポイント2: 横型ブルー
タンク保管エリアCとタンク解体部
材一時保管施設の間隙部の土砂堆積
箇所)



(写真5)

同集水エリア内での地表面の汚染検査の状況（ポイント3：瓦礫類一時保管エリアNのうちD排水路側に最も近い凹地の土砂堆積箇所）



(写真6)

同集水エリア内での地表面の汚染検査の状況（ポイント4：1/2号機開閉所周辺法面のうち、開閉所側の法面側溝：最下段部）

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。